



健やかな子供の成長を願って

特集



五月五日(土)の「こどもの日」をスタートとする一週間は児童福祉週間です。活力ある社会の建設のためには、子供たちの健やかな成長こそが肝心です。子供にとって最も気持ちの良いこの季節に、健やかな子供の成長を目指して、皆で子供の問題を考えてみようではありませんか。

子供の減少と環境の変化

厳しい子供たちの将来

子供の数は出生率の低下傾向のため、今後ますます減少していきます。

会になると言わざるを得ません。また、子供の遊び仲間も少なくなるわけで、以前と比べると、人間関係の上では縮小された規模の中で子供が育つということになります。その半面、テレビなどによる情報環境がますます変わっていくわけですが、これも以前とは異なった条件を子供の成長に与えていくと言われて

子供は将来の日本の社会を支えていくわけで、この子供たちが少なくなることは、将来の社会の仕組みにも大きな影響が出てくると言わねばなりません。子供が少なくなることは、全く子供に責任のないことですが、人口構造の上からは、現在の子供たちにとって将来は厳しい社

会になると言わざるを得ません。また、子供の遊び仲間も少なくなるわけで、以前と比べると、人間関係の上では縮小された規模の中で子供が育つということになります。その半面、テレビなどによる情報環境がますます変わっていくわけですが、これも以前とは異なった条件を子供の成長に与えていくと言われて

今後の取り組み方

21世紀の社会づくりは

大人の責任

子供を健やかに生み育てるため、行政の面では、母子保健、保育、健全育成などの対策を一層充実させていく必要があります。しかし、言うまでもなく、子供の問題は行政のみならず、

各家庭、地域社会、社会全体の課題であり、それぞれが力を合せて取り組んでいかなければなりません。子供は、社会的な発言の場を持たないのですから、二十一世紀

自主性を育てる

自分で判断・行動できる場を

親の言う事を何でも「はい」と聞いてすぐ行動する子どもと親から見ればこんなに「いい子」

はいないかもしれません。しかし、子どもも成長するにしたがい自分で物事を判断して行動し、その責任をとれるようにならなければ、大人になってもすぐ他人に左右される「付和雷同型の人間」になってしまいがちです。

しかるより助言を

子どもには、小さいころから自分で判断する場、行動できる場を与えてあげたいものです。子どものやり方がいくらにはがゆく思っても、大人がすぐに手や口を出してしまつては子どもの自主性は育ちません。大人は、子どもの考えや行動を真っ向から否定しないように気をつけたいもの。仮に間違つていても、それがなぜいけないのかを説明したり、助言したりするぐらいにとどめておきましょう。たとえ失敗しても、子どもはその経験を生かしてより大きく成長するのです。



紀に向けて活力ある福祉社会を建設して後世代に引き継ぐことは、現代に生きるわたしたち大人の責任です。児童福祉週間を迎えて、皆で子供の問題を考え

ワンポイント

上手にほめて
上手にしかろう